



図書館サポーターズだより

2014年11月24日

第63号

明日に吹く風

寒い季節になり、今年も残すところ2ヶ月をきりました。図書館でゆっくり読書を楽しんでみませんか？

☆図書館サポーター推薦図書☆

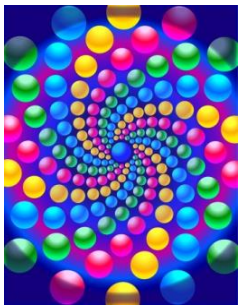
◆『流星の絆』 東野圭吾著 講談社 1F メインカウンター(913.6 | H55)

幼少時、夜中に家を抜け出して流星群を観に出かけている間に両親を惨殺されるという過酷な運命を背負った三兄妹が詐欺を働きながら、時効が迫る14年後に真犯人を追い詰める復讐劇です。「嵐」の二宮和也さんが主演を務め、ドラマ化もされた有名な作品なので知っている方もたくさんいると思いますが、三兄妹の絆や協力し、助け合って一生懸命生きていこうとする姿がとても感動的で魅力の一つです。

私は、今までミステリー小説などは、推理が難しくてあまり読んでできませんでした。しかし、この本は普段あまり本を読まない人やミステリーやサスペンス小説を難しいと感じる人にとっても、とても読みやすい本だと思います。ぜひ、一度読んでみてください。(S.A)



◆『宵山万華鏡』 森見登美彦著 集英社 1F メインカウンター(913.6 | Mo54)



祭りの夜に何かが起こる・・・森見ファンタジーの真骨頂！祇園祭宵山の京都の一日を舞台に不思議な事件が交錯し、すべてが繋がっていきます。万華鏡のように多彩な宵山の姿を楽しめる小説です。

本を読んでいるうちに自分が宵山の迷路に紛れ込んだような感覚になります。小説の中には、「孫太郎虫」「超金魚」「赤い浴衣を着た少女たち」「ヘタレ大学生」と魅力的な生き物がたくさん登場します。また、宵山の京都が目に見えてくるような美しい情景も魅力の一つです。奇快、痛快、あったかい・・・寒い冬には打ってつけの本です。幻想と現実が入り乱れる森見ワールドをお楽しみください。(K.U)

◆『偉大なる、しゅららぼん』 万城目学著 集英社 1F メインカウンター(913.6 | Ma34)

舞台は、琵琶湖の街、石走である。この街には、1300年に渡り、「代々不思議な力」を伝承してきた一族がいる。日出家は、江戸時代から現存する石走城に住む現代の日本で唯一「城」に住む一家。その跡取りにして、最強の力の持ち主とされる淡十郎は、高校生ながら日出家の力によって街の人々から崇め奉られる。

分家の息子・涼介は一族の掟に従い、高校入学を機に力の修行のため日出家の城に居候することに。淡十郎の「ナチュラルボール殿様」な言動に振り回される日々が始まった。淡十郎と涼介の高校のクラスには、日出家のライバルであり、特殊な“力”を持つ棗家の長男・棗広海がいた。ここに日出家と棗家の力で力を洗う戦いの幕が上がる・・・。

リズム感のある文章と大団円に向かって進んでいくエネルギッシュな展開で長編ですが、一気に読めます。奇想天外な展開をお楽しみください。(K.U)

